

# 養父市人と環境にやさしい農業ビジョン（案）に対する意見募集の 実施結果について

## 1 概要

養父市人と環境にやさしい農業ビジョン（案）について、市民の皆様からのご意見（パブリックコメント）を募集しました。

その結果、1名の方から6件のご意見をいただきました。お寄せいただいたご意見の要旨及びご意見に対する本市の考え方を次のとおり公表します。

## 2 意見募集の概要

- (1) 募集期間 令和5年4月28日（金）から令和5年5月18日（木）
- (2) 募集方法 市ホームページ、電子メール、ファックス、郵送、持参
- (3) 縦覧場所 市ホームページ、養父市産業環境部農林振興課、経営企画部  
経営政策・国家戦略特区課及び各地域局

## 3 結果

- (1) 意見の提出方法

意見数		1人（6件）
内訳	ホームページ	0人（0件）
	電子メール	1人（6件）
	ファックス	0人（0件）
	郵送	0人（0件）
	持参	0人（0件）

(2) 意見の内容及びご意見に対する本市の考え方

意見 番号	頁	ご意見の要旨	本市の考え方
1	全般	<p>総論としては、強みが何か（それをどう活かすか）、弱みは何か（それをどうカバーするか）、どのような課題を、どのような時間軸で解決していくのか、その解決のために今後5年間で何をしていくのか、というロジックをもっと明確に記述するのが良いと考えます。※特に、養父市の農地維持の困難性（P.2等）と、本ビジョン案で提示されている有機農業推進（P.2等）、先端技術の活用を明確にするのが良いと考えます。なお、SDGsの各目標の考えを打ち出していくのも補強材料になると思います。</p>	<p><b>【意見回答】</b> 本ビジョンでは養父市の農業において環境負荷低減農法や先端技術の活用により、持続可能な農業への転換を図り「人と環境にやさしい農と食を未来につなぐまち」を目指すことを目的としております。第4章（P26～P34）では、具体的な取組内容を記載しており、その取組を実践することにより目的の達成を目指す構成としております。</p>
2	1	<p>「養父市ならではの強みを活かして」については、P.22の牛糞堆肥活用（及びP.10の特産品）以外に、「ビジョン」案では明確に書かれているようには思えませんが、強みを、市民に分かりやすく、もっと明確に書くのが良いと思います。</p>	<p><b>【原案を修正】</b> ご指摘のとおり養父市の農業における強みとして、牛ふん堆肥の活用等が挙げられますので、ご指摘の点を参考に修正いたします。</p>
3	5	<p>販売農家数の低さ、小規模兼業農家の多さ、農業者が10年後に半減といった論点が課題であれば、どの程度問題なのか、それをどのような方向性で解決しようとしているのか（技術革新、有機農業により解決？）を「ビジョン」でもっと明確に記述するのが良いと思います。また、慣行栽培のどのような点が、どの程度、養父市で問題となっているのか、環境（獣害、耕作放棄地、洪水、里山減少、環境負荷等（←養父市環境基本計画）、及び、技術革新の課題/必要性（人口減少、耕作放棄地対策？）の観点から記述するのが良いと思います。</p>	<p><b>【意見回答】</b> 販売農家数が少なく、小規模兼業農家の割合が多いため、人口の減少に伴って維持ができる農地が減少すると見込まれます。また、慣行栽培が悪いということではありませんが、化学肥料や農薬が及ぼす環境への影響や昨今の世界情勢に起因する農業資材等の高騰により、従前の手法からの転換が求められていると認識しております。養父市内で以前から行われていた有機農業等を拡大し、SDGsやみどりの食料システム戦略でも提唱されているように、環境へ配慮した取組として養父市が一体となって進めることで、</p>

			その取組に共感する方の農業参入を促進し、担い手不足等の課題への対応策の一つとして考えております。
4	26～34	<p>(第4章) 目標値についてですが、「ビジョン」案によれば、耕作地が1490haあり、農業人口が10年後に半減するとの予測の中で、「ビジョン」案で記されている課題を解決するために、当該目標値は低い気がします。また、「ビジョン」案で書かれている目標値はいわゆるアウトプット効果であり、中核政策たる「ビジョン」では、養父市の農業が、環境対策等により、どのような姿になっているかというアウトカムについても記述するのが良いと思います。私自身としては、アウトカム効果は、有機農業進展や技術開発により、耕作地や農業人口、及び環境への負の影響をどれだけ抑えるか、うまくいけば、負の影響を抑えるだけではなく、好循環を実現し、生産量、販売額をどれだけ増やしていくかということだと考えています。</p> <p>なお、環境負荷の低減に取り組む農家の目標値、5年後60%、10年後90%（「ビジョン」案(P.2)）は、上位計画である養父市まちづくり計画に記載されている訳ですし（＝重要指標）、改めて第4章に目標値として入れるのが良いのではないかと思います。</p>	<p><b>【意見回答】</b></p> <p>第4章の目標値については、環境負荷低減農業等の推進における課題に対応した設定をしております。農業全般において課題とされる担い手の確保や農地維持管理等については、本ビジョンで示す農業の方向性も含め、幅広い視点で検討をすべき課題として認識しております。</p> <p>アウトカム効果については第3章でも触れておりますが、有機農業の転換が進むことで、農業所得の向上や新規参入者の増加等の効果を想定しております。</p> <p>「環境負荷の低減に取り組む農家の数」については、本ビジョンの上位計画に位置する養父市まちづくり計画において目標設定されており、同計画の進捗管理に用いるものとして整理したうえで、本ビジョンではその中核的な農業者の増加を目指すための取組の方向性を示すものと考えております。</p>
5	31	<p>環境負荷低減農業・有機農業への転換イメージ図自体には異論はありませんが、栽培方法の割合の転換もさることながら、右割合を転換することにより、耕地面積、生産高や売上高がどう変化するか、農業がどう発展していくかのイメージを記すことが大切だと思います。</p>	<p><b>【意見回答】</b></p> <p>貴重なご意見として承ります。農業の発展性については第3章でも触れておりますが、消費者の理解を得ることで農業所得の向上や新規参入者の増加等の好循環を目指すこととしていきます。</p>

6	全般	<p>養父市産有機野菜は、有機作物への市民の関心もそれ程高くなく、養父市民が食する機会も多くなく（P. 48）、ほとんどが都市部へ流れているとの認識です。広報活動等を行っていく旨等書かれていますが（P. 23、P. 30 等）、さらに、学校教育現場に限らず、養父市民が地域ごとに地元産の有機作物（特に、米より鮮度が落ちやすい野菜等）を食せるような日常生活を確立できる異次元の各種施策を実施すれば、養父市民の有機栽培への理解や支持が高まり、より有機栽培等の農業が発展し、養父市のまちづくりのブランドとなっていくと考えます。したがって、野菜等有機栽培作物を地域で食する割合（或いは地産地消を実現した地域の数）を「ビジョン」の目標値として加えることも一案かと思えます。</p>	<p><b>【意見回答】</b>      貴重なご意見として承ります。有機農業の取組拡大には地産地消を進める事が重要と認識しており、ご意見をいただいたとおり、有機農産物の市内消費率の向上を進めたいと考えています。現状では根拠となるデータ等が不足しているため目標値の設定までは至りませんが、取組内容の一つとして市内消費の拡大を進めることとしています。</p>
---	----	---	---